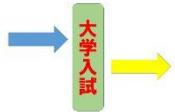


教育について考える

通番	区分	テーマ	ねらい・概要	スライド	使用教材
	I・II		生徒の問いに向き合う；なぜ学ばなければならないのか、教育について歴史や各国の状況を踏まえ根本から考える機会を設ける		

時間	スライド	ファシリテーション・生徒の活動・留意点など
15分	<p>教育について考える</p> <p>なぜ〇〇を学ばなければならないのか？</p> <p>世界(システム)(ゲーム)が変わる</p>  <p>〇〇を勉強する 〇〇で勉強する</p> <p>一つの山の登り方を身につけて 他山の登れるようになる</p>  	<p>生徒の中から出た「なぜ学校があるのか」「〇〇の教科をなぜ学ばなければならないか」などの問いに向き合って学ぶ</p> <p>大学入試を境に、学び方が大きく変わる。正解を再現する受け身の学びと自ら問いを立てて、主体的に進めていく学び。探究的な学びである。高校を卒業するとある意味すべて「探究的な学び」になる</p> <p>高校からの学習がずっと一本の線につながっているわけではないことに言及する</p> <p>よく例えられている言い方ではあるが、単に「教えられるものを無条件にこなす」ことに注力し、何も考えていない生徒は、時に迷いが生じたり、真に強いモチベーションで勉学に励むことができない状況が見受けられる</p> <p>一つの教科で習得したことが、自分で自由に活用でき、汎用的な力となるように、一般化・概念化することを意識しながら学ぶ必要がある</p> <p>これも一つのメタファーであるが、当該教科の授業においては、本来の意味を考えることなく、ほぼ無意識に活動する場合がある。数学であれば、出てきた数字を知っている公式に代入してとにかく「答え」を出そうとする。ノコギリを渡されると、何も考えずに材料を切ったり、またカンナを渡されると削り始めるようなものである。そのような「作業」をすることで（正答が出ることで）思考が一旦停止する。探究的な学びは、それらの材料を自分の目標に合わせて組み合わせる活動に当たる。具体から抽象へ方向に向いた動きとなり、正答を求める向きとは逆になる</p>

50分

天才的数学者が伝えたかったこと
 「人の感じ方が分かること」とは「この人は感じているのだな」と感じ取れることではない。ある、自分のそばにたどり着くことでもない。相手の感じ方を知るのと同じように感じ取れること。この経験がなければ、自分も他人も感じ取ることができなくなる。マニピュル的な教育法ではなく、感情が伝わる。

雨にも負けず 風にも負けず 寒にも夏の暑さにも負けぬ
 丈夫なからだを持ち 涙は無く 決して涙からず 何時も静かに笑っている
 一日に五食四食と 味噌と少しの野菜を食べ
 あらゆる事を色分を勘定に入れずに 良く見聞し判り 決して忘れず
 野原の松の木の影の小さな盛衰きの 小尾に居て

奥に病氣の子供あれば 行って看病してやり 胸に盗れた母あれば 行ってその胸の奥を背負い
 奥に死にそうなる人あれば 行って師がらなくとも 良いと言ひ 北に喧嘩や訴訟があれば つまみ食いからめろと言ひ
 日頃のときは涙を流し 寒さの夏はオロオロ歩き
 唇にデクノポーと呼ばれ 嘗められもせず 苦にもたれず
 そういふ者に 私はないたい

すぐに役立つ学びは
 すぐに役立つなくなる

好きなことを仕事にしたい
 →好きなことだけでは仕事は成り立たない
 しなければならないことを好きになるしかない
 なぜなら、自分の生まれる前から世の中はあったのだから

60分

世の中には全員遅刻して来ている。
 →サッカーの試合がすでに始まっている。選手としてサッカーのことを何も知らない者が放り込まれている。
 何の役に立つのか分からない

行動主義	認知主義	構成主義
知識は、環境から学習者が取り出す。学習者は環境から知識を取り出す。	知識は、環境から学習者が取り出す。学習者は環境から知識を取り出す。	知識は、環境から学習者が取り出す。学習者は環境から知識を取り出す。
知識は、環境から学習者が取り出す。学習者は環境から知識を取り出す。	知識は、環境から学習者が取り出す。学習者は環境から知識を取り出す。	知識は、環境から学習者が取り出す。学習者は環境から知識を取り出す。
知識は、環境から学習者が取り出す。学習者は環境から知識を取り出す。	知識は、環境から学習者が取り出す。学習者は環境から知識を取り出す。	知識は、環境から学習者が取り出す。学習者は環境から知識を取り出す。

「構成主義」に基づく学びとは
 ・客観的に正しい知識が元々あるのではない
 ・他者と関わるなかで互いに話し合える言語や概念が作られる
 ・問題にあるモノをいじるうちに道具としての使い道が見える
 ⇒ 問題との相互作用によって学ぶ
 ⇒ 教師が生徒へ「伝達」できるものではない

構成主義的学習モデル
経験学習理論
 1 具体的な経験を積む
 2 その経験がなぜうまくいったか、何が問題だったかを多様な観点から内省する
 3 内省をもとにこの先も応用できそうな理論にまとめる **概念化**
 4 新たな場面でもその理論を試してみる

天才数学者 岡 潔 が訴えたこと ⇒ 情緒を理解するためには、頭で理解するのではないかわいそうだと同情することでもない 繊細さが必要だ
 そのためには「国語」と「歴史」を学ぶこと

宮沢賢治の作品を鑑賞する

目先の利益に心を奪われないように、じっくり考えて主体的に学ぶ姿勢を身につけたい

自分に社会が合わせてくれるということにはならない、世界は自分が生まれる前からあったのだから、謙虚な態度で学ぶことが大切ではないか

学習理論の比較

今ある「知識」は客観的にこの世界に存在するもので人から人へ伝達できるという、これまでの常識的な考えも根本的に異なる捉え方があることを知る

創造力を育成していくためには、このような固定的な見方・考え方から「構成主義」に基づく学びについて考える

具体的な経験を積むことで、何が上手くいき何が問題となるか振り返りによって、この先も応用できそうな法則や理論としてまとめる それを実際に試す

この「経験学習理論」に基づき、「未来創造」の理論編が構成されている



答案用紙のちがい

マークシート 自由記述

一点に収束 無数に発散

日本国内 新傾向入試問題例

表からいくつかの標準偏差を指摘し、それぞれの特徴を比較した上で、その比較から考えられる課題とその課題が生じた背景について述べて、その課題を解決するための考えを1200字以上2000字以内で考案しなさい。

自身の経験として想定していた地域の課題やその解決への活動、大学での学修や活動を通して、卒業後期待から今日までの期間に何を考え、調べ、行動してきたか、自分自身の活動を振り返って具体的に説明しなさい。空欄用紙は提供しない。

※問題の出発年度は2018

日本国内 新傾向入試問題例

グラフを比較して男女で共通する点と異なる点を指摘し、それぞれについて、そのような傾向が生じる原因を800字以上1200字以内で考案しなさい。

対照例案が2018年度までのように実施されない場合、あなたの入学後の学修・研究・活動などどのような影響があるか思いっきり書きなさい。また、課外・校外での活動に制約がある中で、どのように学修・研究・活動を認めたいかと考えられますか。取組んでの考えを800字以上の枠内でまとめてください。

※問題の出発年度は2018

問い
「教育」について、あなたが感じたこと、考えたこと、気が付いたこと、新たに学んだことを書き留めておいてください。

問い
「未来創造」は、創造力を高めるために常識にとらわれずに多様な発想をして、自分だけでなく他者との対話や考えを学ぶ重要な授業です。このような授業について、あなたはどのようにつながっていますか？

90分

これまでの学びを総合したモデルを提案する

入力と出力をつなぐことが考えること
 入力は想像力に関係し、出力は創造力に関係する
 創造力を伸長するためには、出力を多くすることが肝要である

世界の大学入学試験を見ると、出力を大切に考えているかどうか分かる

大学入試問題がどのように変わってきているか、具体的に見てみる

大学が何をねらっているか

教育について、自分が考えたこと、気づいたこと、新たに分かったことを出力する

さらに「未来創造」の授業について、どのように考えているかを問う